

| | | | | |
|------|---|---|---|---|
| 学校番号 | | | | |
| 3 | 7 | 0 | 1 | 0 |

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 25 日

札幌市立 福井野中学校

1 今年度の重点目標

1 真正な (authentic) 教育観・評価観に基づく教育課程づくり 2 自己肯定感・自己有用感を育む教育活動 (自己承認の感度を高める教育活動)

2 本年度の経営方針～神聖な教育的価値観の構築～

- ◆時代を見通した教育課程・カリキュラムづくり
- ◆「自分づくり」に向かう生徒支援
- ◆安心・安全な学校づくり (危機管理意識の醸成、働き方改革の推進)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 重点項目 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | |
|------------------|------------------------|--|----------------------------|---|---|---------|---|
| | | | 達成状況 | 改善方針 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ | |
| 目指す子ども像 | 「自他のよさを認める自分づくり」を目指す生徒 | 自己承認の感度 | A | 他者だけでなく、自分自身のよさを認め、互いに高めあうことができるよう、学校生活全般において、さらに魅力ある教育課程を推進していく。 | B | B | |
| 学校関係者評価委員会による意見 | | <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価について、生徒と保護者の評価に差がある。 ・質問項目が適切ではなく、評価できない部分がある。 ・昨年度と比較して、生徒の肯定的な評価は高まっているが、保護者の評価は「わからない」が多すぎる。家庭との関係を築き、早期対応・継続的な対応を続けてほしい。 | | | | | |
| 調和のとれた育ち | 学ぶ力 | 「学ぶ力」育成プログラムの実施 | 教師の授業・指導力の向上 | B | 子どもたちが「授業がわかりやすい、楽しい」と実感でき、さらに深化・充実させ、より自他共に認め合うことを大切に授業づくりを目指す。 | A | A |
| | 豊かな心 | 道徳教育 | 道徳教育及び人間尊重の教育の在り方 | A | 今後も道徳の授業を要とし、互いを尊重し、支え合い、よりよく生きようとする態度を育む。また、自他を尊重し、自己肯定感、自己有用感を育むことができるよう支援する。 | A | A |
| | 健やかな体 | 「健やかな体」育成プログラムの実施 | 心身の健康の保持、健全な生活を送るための指導の在り方 | A | 保健体育科の授業、健康指導をもとに、心身の健康の保持に努める。また、授業以外で子どもの運動機会を創出していく。 | A | A |
| 学校関係者評価委員会による意見 | | <ul style="list-style-type: none"> ・部活動、生徒会や地域との交流活動を推進し、社会性や協調性を高め、心身ともに健全な育成指導を期待している。 | | | | | |
| 札幌らしい特色ある学校教育の推進 | 学びの基盤となる【読書】 | 落ち着いた雰囲気ですすめる朝読書の実践と学校図書館活用の啓発 | A | 朝読書を通して感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにするとともに落ち着いた雰囲気づくりを継続していく。また、学校図書館のさらなる活用により、学ぶ力の育成に取り組んでいく。 | B | B | |
| 子どもの発達への支援 | 不登校支援 | 生徒や保護者個々のニーズに応えた相談活動の充実 | B | 未然防止・早期対応を心掛ける。他者との関わりを生む活動により、学校がより安心できる居場所となるよう努める。また、不登校生徒への学習等の支援に努めるとともに、関係機関との連携を図る。 | B | B | |
| 信頼される学校の創造 | 安全教育 | 安全教育と情報発信の充実 | A | 実際の災害を想定し、避難訓練や安全教育の充実を図る。学校公開の機会を増やし、保護者に学校へ足を運んでもらうことで本校の教育を理解してもらう機会を作る。HPの充実、すぐるの活用により、学校からの情報発信に努める。 | B | B | |
| 教科等の枠組を越えた教育 | 進路探究学習 (キャリア教育) | 特別活動及び総合的な学習の時間の有効活用 | A | 今後も授業や学校行事、総合的な学習の時間を通して、生徒一人一人が社会的・職業的自立に向け見通しをもてるような指導に努める。 | B | B | |
| 学校関係者評価委員会による意見 | | <ul style="list-style-type: none"> ・防災、防犯、交通安全等、町内の活動とも連携した活動を期待している。 ・札幌らしいとはどういうことか考えてほしい。 ・いじめについては保護者のもつ感覚と一部違うところがある。 ・「いじめのない学校」だけでなく、「不登校」に対する対応を、保護者とともに模索し、「自分づくり」に向かう支援を工夫してほしい。 | | | | | |
| 学校独自に設定する分野 | 小中一貫教育に向けた取組 | | A | 目指す子ども像を小中で共有し、児童生徒、教師間の交流をさらに深め、義務教育9年間の連続した学びを充実させる。また、取組の内容とその効果について保護者や地域に発信する。 | B | B | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 学校関係者評価委員会による意見 | | <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の根拠を明確にすべき。学校評価アンケートの内容を見直すことも検討を。保護者の評価が低下していることに対して改善を。 | | | | | |